

福島第二原子力発電所からのお知らせ（平成26年7月号）

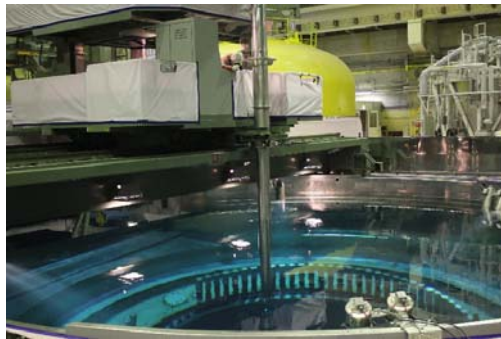
福島第二原子力発電所1～4号機は、安定した冷温停止を維持しています。発電所の最新状況や、様々な取り組みをお知らせします。

1号機の燃料移動が完了しました ～安全・確実を第一に慎重に作業を進めました～

- 1号機は、6月2日より原子炉内から使用済燃料プールへの燃料移動作業を行っていましたが、7月10日に、すべての燃料の移動が完了しました。
- 今回の作業は、この3年間で原子炉内にたまった鉄さび等（配管の鋼材等から発生）が燃料移動時にまいあがり、炉内の水が濁りやすい状況でした。燃料交換機上の監視員が炉内の状況を確認できるよう、これらの鉄さび等による濁りを浄化しながら、慎重に作業を進めました。
- 今後、8月上旬頃より、蒸気乾燥器の周りの目視点検*を行う予定です。
- 当所では、設備の維持管理の簡素化の観点から、原子炉内の燃料を使用済燃料プールへ移動することとしており、1、2、4号機の燃料移動が完了しました。3号機の燃料移動については、今年度中に行う予定です。



燃料交換機操作室から全体の状況を確認する監視員



双眼鏡を用いて原子炉から燃料の取り出し状況を確認している監視員

○これまでの燃料移動の実績

号機	平成26年度上期	平成26年度下期
1号機	平成26年7月10日完了	
2号機	平成25年10月16日完了	
3号機		平成26年度下期 に燃料移動予定
4号機	平成24年10月24日完了	

* 蒸気乾燥器を支持する部材（蒸気乾燥器支持ブラケット、蒸気乾燥器耐震用ブロック）の点検のことで、4号機の炉内点検で軽微な損傷が認められたことから行うものです。

定期的な点検作業の際も 燃料冷却の維持を最優先に考えています

- 7月2日から3日にかけて、外部から発電所内に電気を供給する回線（2回線で構成）の定期点検を行い、問題なく終了しました。
- 今回の点検は、所内の開閉所に設置されているこの回線の電線と付属設備の外観点検と清掃で、作業は短時間ですが、作業員の安全確保のため、2つの回線の電気を交互に停止したうえで1回線ずつ点検を行いました。
- 1回線を停止して点検している間に、もう一方の回線がトラブル等により停止してしまうと、電源がなくなり一時的に燃料の冷却も停止しますが、すみやかに燃料冷却を再開できるよう、事前に検討*を行いました。
- 当所では、こうした定期的な点検作業においても、燃料の冷却に影響を及ぼすことがないように検討したうえで、作業を行っています。

* 事前に検討した内容

○適切な点検時期の選定

バックアップ用の非常用ディーゼル発電機について、点検により停止している台数が最も少ない時期を選びました（2号機で3台中1台のみ点検中。他1、3、4号機は3台ともスタンバイ状態）。

○トラブル時の電源確保の流れ

トラブル時は、非常用ディーゼル発電機が自動的に起動するとともに、点検している回線を復旧し、電源を確保します（点検している回線の復旧見込みは2時間以内）。また、万一、それらによって電気が供給できない場合でも、ガスタービン発電機や電源車で電源を確保します。

○トラブルに備えた要員確保ならびに連絡体制の強化

点検にあたり、非常用ディーゼル発電機やガスタービン発電機、電源車の起動時に備え要員を確保するとともに、点検作業員を含めて連絡体制を強化しました。



点検を行う開閉所内の電源設備



点検の様子

技術力強化訓練に関し「技術・技能大会」を開催し訓練の成果を確認しました

- 震災の教訓から発足した4つのチーム*による技術力強化訓練は、今年の7月で開始して1年の節目を迎えたことから、発電所内で「技術・技能大会」を開催し、4つのチームすべての実技が終了しました。
- 本大会で実技を行い審査をした結果、4チームとも所定の作業が安全かつ確実にこなすことを確認しました。
- また、この1年間の訓練の成果として、各チームの役割や目的に応じて、重機や資機材を所員自ら扱えるようになりました。
- 今後は、電気系のモータ取替とケーブル接続、機械系のガレキ撤去とポンプ復旧の各チームメンバーを入れ替えて訓練を重ねることで、対応の幅を広げ、プロジェクト全体の総合力の底上げをはかります。

〈先月号の2チームに引き続き、残り2チーム（ケーブル接続・ポンプ復旧）の大会の様子〉

□ケーブル接続チームの実施項目

- 取り替えたモータへ電源を供給するためのケーブルを布設・接続します。
- ①開閉所から電源盤へのケーブル搬出・移動
- ②電源盤でのケーブル布設
- ③ケーブルの端末処理・電源盤への接続

□ポンプ復旧チームの実施項目

- 津波で水没して使用できなくなったポンプの軸受を取り替えます。
- ①ポンプ軸受カバーの分解
- ②ポンプ軸受の取り外し・取り付け
- ③ポンプ軸受カバーの組み立て



所員によるケーブルドラムの移動



ポンプ軸受カバーの組み立てを行う所員

*震災の教訓から発足した4つのチーム

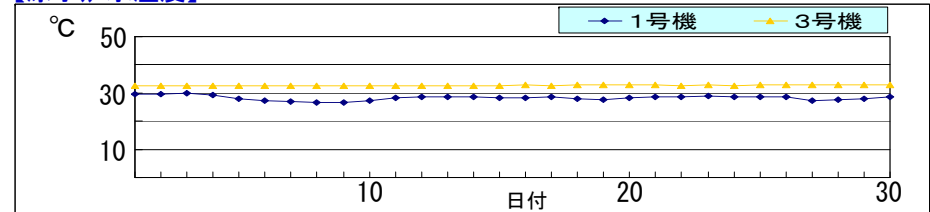
昨年7月、震災時の経験から得た教訓をもとに、4つのチーム（ガレキ撤去、モータ取替、ケーブル接続、ポンプ復旧）を結成し、機器が壊れた場合でも当社社員単独で対応できる技術力の習得訓練を、計画的に行っています。

【プラントデータ】

燃料の冷却状況（6月分）

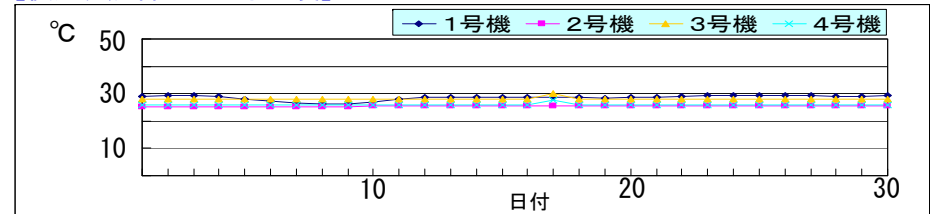
原子炉水および使用済燃料プール水の温度は、約30℃程度で安定して推移しており、燃料の冷却を維持しています。

【原子炉水温度】



2号機は平成25年10月16日までに、4号機は平成24年10月24日までに原子炉内から764体の燃料すべてを取り出し、使用済燃料プールへ移動しました。

【使用済燃料プール水温度】



さらに詳しい情報は当所ホームページをご覧ください。

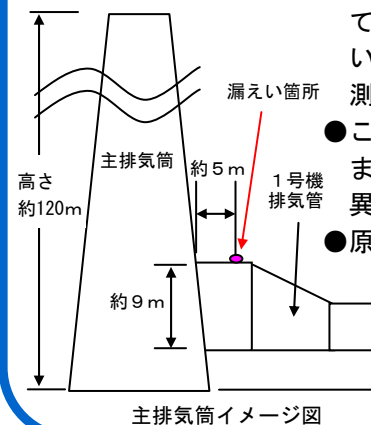
＜URL＞

<http://www.tepco.co.jp/nu/fukushima-np/f2/index-j.html>

＜QRコード＞



建屋の換気空気を排気するための管から空気が漏れいしましたが放射性物質の検出はありませんでした



- 6月26日、1号機の建屋を換気した空気を主排気筒に送っている排気管に約1.5cmの穴があり、外側に空気が漏れていることを確認しました。穴の周辺の放射性物質の濃度を測定した結果、放射性物質の検出はありませんでした。
- この穴を鉄板でふさぎ、空気の漏れはないことを確認しました。並行して、他号機についても穴がないか確認し、異常はありませんでした。
- 原因については、調査後、お知らせします。



鉄板でふさいだ後

